

学年	高校3年	教科	数学	科目	数学演習	単位数	6
教科書名	Challenge Workbook 理系数学 (学研)			副教材名	サクシード I + A (数研出版) サクシード II + B (数研出版)		
コース・クラス	N 進理系						

I. 目標

数学の基本的な原理や法則を理解させ、知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を育てる。日本大学基礎学力到達度テストで必要な数学 I・A・II・B・IIIの基本事項を学び、日本大学基礎学力到達度テストの得点率8割を目標とする。

II. 授業のねらい

基本事項をしっかり理解し、知識を整理するとともに、総合的に数学を解く力を身につける。その時々で問題を解く時間を設定し、日本大学基礎学力到達度テストをイメージさせる。

III. 授業の進め方

1. チャレンジワークを中心に、授業を展開する。日本大学基礎学力到達度テストの過去問題や演習プリントなども適宜教材として扱う。
2. 小テスト実施し、定着の度合いを図る。

IV. 学習上の留意点

1. テキスト、授業用ノートを用意して授業に臨むこと。
2. 定期試験の返却後、間違えた問題を確認し、復習を必ず行うこと。
3. 提出物の期限は必ず守ること。

V. 定期試験

日本大学基礎学力到達度テスト相当の問題を幅広く出題する。

- 1 学期 中間試験 : 数学 I A
 1 学期 期末試験 : 数学 II B
 2 学期 期末試験 : 応用数学

VI. 評価の方法

定期試験、小テスト、提出物の提出状況と内容、授業の取り組み方などを総合的に評価する。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	【数学Ⅰ】 第1章 数と式、不等式、命題	定期試験 小テスト 提出物	<ul style="list-style-type: none"> 基本事項を確認し、Challenge Workbookを通して、応用力を身につける。 演習プリントを通して、日本大学基礎学力到達度テストにより近い問題に慣れる。 日本大学基礎学力到達度テストを意識し、時間配分を考えながら問題に取り組むことができる。 幅広い知識を習得し、個人で勉強を進めることができる。
	5	第2章 2次関数 第3章 三角比 第4章 データの分析		
	6	【数学A】 第5章 場合の数 第6章 確率 第7章 整数の性質 第8章 図形の性質		
		【数学Ⅱ】 第9章 複素数と方程式		
		第10章 図形と方程式 第11章 三角関数 第12章 指数関数 第13章 微分法と積分法		
		【数学B】 第14章 数列		
	7	第15章 ベクトル		
二学期	9	基礎学力到達度テスト対策	定期試験 小テスト 提出物	<ul style="list-style-type: none"> 過去問題を使用して、各々正答率を上げる。過去問題で8割以上得点できる。 大学入学後を見据え、高校数学だけでなくいろいろな数学の問題に取り組み、知識の幅を広げる。 大学の授業を見据えて、大学の単位が取得できる授業を行う。いろいろな数学の問題に取り組み、知識の幅を広げる。
	10	応用数学		
	11			
	12			

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。